

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192500011		
法人名	社会福祉法人 清心会		
事業所名	グループホーム 夢の郷		
所在地	岐阜県安八郡神戸町丈六道村西59番地		
自己評価作成日	2019年10月1日	評価結果市町村受理日	2019年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhou_detail_022_kan=true&j_gyosyoCd=2192500011-00&Servi_cdCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	2019年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎年5月に開催される地元の日吉神社祭り、秋に開催される神戸町の文化祭、また毎月開催される、ローズカフェ、お寺カフェなどに参加したり、日吉神社の茅野輪ぐりを体験したり、地域の行事に積極的に参加するなど地域の方々との触れ合いを大切にしています。毎年家族会を開催し、親子で作品作りを楽しんでいただき、食事は、日頃ご利用者様が食されている昼食と一緒に召し上がっていただくなど、ご家族様が安心していただけるよう心かけています。清心苑夏祭りにもご家族様にも参加していただいております。併設されているデイサービスと合同で、初釜、夏祭り、敬老会、運動会なども楽しんで過ごしていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、利用者と家族のような関係を築き、地域の中で安心して暮らせるように取り組んでいる。地域行事や認知症カフェに積極的に出掛け馴染みの人との出会いを大切に交流している。また、事業所行事に案内を配布して参加してもらったり、七夕のササをもらったりして地域とのつながりも深めている。運営推進会議では、ヒヤリハットなど些細なことも報告していると評価を得ている。事務所がリビングから離れているため、リビングに椅子と机を用意して常に見守りができるように工夫している。自己評価のケアに関する項目を全職員が分担して行い日頃の仕事を振り返る機会となった。洗濯干しや食器洗い・掃除など利用者の力を活かした役割があり、得意な書道リビングに掲示したり、好きなランプやゲームなど楽しみや張り合いのある生活が出来るように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の経営理念、行動指針、グループホーム夢の郷介護理念を毎朝、申し送り時に唱和して実践に繋げています。	経営理念などを毎朝継続して唱和し、日々のケアを思い返している。事業所理念である「私たちがあなたのもう一つの家族です」にそって買い物など家族と同じように行い、馴染みの関係を大切に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭り、文化祭、認知症カフェなどに参加しながら地域との交流を深めています。	併設のデイサービスと合同の夏祭りに近所の方に参加してもらったり、地域行事や認知症カフェに出かけたりして交流している。事業所のクリスマス会に、老人会会長がサンタになってプレゼントを持って来るなど地域とのつながりを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の研修会、法人内の研修会などに参加し、ご家族様からの相談があった場合は適切なアドバイスをさせていただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に、委員の方に出席していただき、利用者様の最近の様子とか、ヒヤリハット、転倒事故などを報告させていただき、委員の方から適切なアドバイスをいただいています。	利用者の状況や事業所の活動・事故・ヒヤリハットなどを詳細に報告して、参加者から意見や感想を聞いている。夏場の水分補給の内容について保健師の専門的なアドバイスにより会議で内容を見直した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険制度で分らないことがあれば地域包括支援センターなどに相談しながらより良いケアサービスの提供に繋がられるよう協力関係を築いています。	制度改正の質問や住所変更が必要になった利用者の問題など担当者に相談して解決している。地域包括センター主催の認知症を理解する啓発活動「オレンジ散歩」に協力したり、多職種会議に参加して意見交換をしたりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会に参加し、勉強会を開催。どのような行為が身体拘束に該当するのか正しく理解してケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアについて委員会に参加し、法人の研修を全員が年2回受け、会議でも話し合い内容を理解して取り組んでいる。ドアを開けるとすぐに階段があるため施錠しているが、外に出たい利用者には一緒に散歩に行ったり、玄関先や1階の洗濯干し場に出たりしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の認識がないまま気づかないうちに虐待に至っている場合もある。身体的、言葉での虐待についても気を付けるようにしています。		

グループホーム 夢の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する文献などから抜粋してレポートを書いて勉強会で発表しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約者様と同時に契約書に目を通しながら丁寧に説明。改定時にも法人全体で説明会を開催し、理解していただくよう周知徹底に心掛けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催時に、管理者、主任、ケアマネを交えて、家族様の意見、要望などをお聞きし、助言するなどして運営に反映させています。	面会時に利用者の様子を報告して要望など聞いている。年1回の家族会でも聞く機会を設けている。意見や要望があれば会議で話し合ったり、その場で相談したりして対応している。急変時の受診対応についての要望を取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人で毎月一回開催される部門長会議で意見交換や、改善提案書などにて話し合う機会が設けられています。	日頃から要望など言いやすい関係を築いている。2階居室の窓を開ける利用者が、夜間に出ようとしないかと心配する意見から改善提案書を提出し、近日中に転落防止の窓手すりをつけることが決定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価を実施し個々の介護技術、知識認定などの評価を行い給与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内のスキルアップ研修を開催時に個々の力量にあった研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ドクター、ケアマネ、理学、作業療法士、介護士など様々な職種の方々との交流を通して、サービスの質の向上の取り組みをしています。		

グループホーム 夢の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談時において、本人の要望・質問などを十分に傾聴し意向に沿ったサービスに努めるなど、安心して暮らしていただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談時に家族様が一番困っていること、要望など傾聴・受容・共感することにより信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」に備えて契約時に施設内で対応できることを説明させていただき、理解を求めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに出来ないことをカバーしながら信頼できる関係を築いていただけるよう支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様面会時には、本人様の現在の状況を報告させていただいています。同時に、ご家族様の思い、要望などお聞きしまして絆を深めながら支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人などが面会に来られた時、ゆっくりと談笑が出来る環境を提供させていただいています。	同級生や近所の方が面会に来られた時は、居室でゆっくりしてもらい再訪を促している。認知症カフェで馴染みの人と出会っている。美容院や墓参りなどには、家族の協力を得て支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が会話しやすい様に席に配慮しています。会話の内容によっては職員も間に入り互いに関わりが持てるように支援しています。		

グループホーム 夢の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後でも、在宅生活を希望される場合はいつでも相談できるよう窓口を用意しています。他の施設に入居される時は介護サマリーなど情報を提供しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画書作成時にアセスメントしながら本人様の希望を聞き取っています。聞き取り困難な場合は本人様の仕草から感じ取ったり、ご家族様にも意向をおたずねしています。	日常の会話の中から利用者の思いを聞いている。外に行きたい希望には、買い物に行ったり、階下のデイサービスに行ったりしている。言われない人には、家族から情報を得たり、選択できるように問いかけたりして思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活環境を尋ねて、出来る限り今までの生活が継続できるように計画書を作成して支援させていただいています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様が施設内でどのように過ごすことが出来たら心地よいのか、また、趣味などが生かすことが出来るか把握して支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれの利用者様に担当者を決めてモニタリングをしています。サービスの変更がある場合はご家族様の思いも取り入れながら3か月毎に介護計画書の見直しをしています。	家族の要望は、面会時に聞いている。3ヶ月毎に担当者がモニタリングを行い会議で話し合って介護計画を作成している。利用者の状態でサービスの追加をする時もあるが、モニタリングが未記入の項目のある状態であまり活用されていない。	全員がモニタリング一覧表を理解して取り組み、さらに利用者の状態に合わせた介護計画となるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書に添ってサービスを提供し記録しています。24時間シートで気づきを共有しながら介護計画書の見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	独居の方で、周囲から支援を受けられない利用者様には買い物、受診、書類の手続きなど、柔軟に対応しています。		

グループホーム 夢の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月、地域で開催されている「認知症カフェ」「寺カフェ」に参加してコーヒーを飲みながらゲーム、歌などを楽しんでいただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけの医師を確認しています。受診時には、ご家族様同行にて受診していただいています。家族様対応が困難な利用者様には職員が同行、受診しています。変化が見られた場合は主治医に指示を仰いでいます。	従来のかかりつけ医に家族が同行して受診している。普段の生活で気になることがあれば書面で主治医に伝え、家族から結果を聞いている。家族の同行が困難な時は、職員が対応している。利用者の病状を電話で相談し指示をもらうこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調に変化が見られた場合は、併設されているデイサービスの看護師に相談しながら適切な助言を受けながら、受診、看護の支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護サマリー、入院に至るまでの症状など時系列に記録して情報提供している。入院中にも早期退院に向けて相談員様と連携を取りながら施設での対応策を担当者会議を開催しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設では看取りの体制を整えておらず、重度化した場合は法人グループ本体の特養への入居を優先的に勧め、契約時に十分な説明をして、理解をいただいている。	入居時に重度化への対応と看取り体制がないことを説明して理解を得ている。利用者の状態に応じて家族と話し合い、希望を聞きながら受け入れ先の情報も提供している。重度化し経口摂取が困難な状態になっても、家族が不安にならないように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応については定期的に勉強会に参加している。又、マニュアルも周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練をしている。7月は日中を想定。12月は夜間想定として消防署、地域の消防団の方にも意見を聞きながら利用者様が安全に避難できる方法を身につける訓練を実施しています。	併設のデイサービスと合同で日中の避難訓練を行い、夜間想定は事業所単独で行っている。食料や水の備蓄品は職員も把握して管理している。訓練には地域の消防団員や区長が参加することもあるが、地域への協力体制を積極的に働きかけていない。	夜間に2階から安全に避難するためには、近隣住民の協力が重要と考えられることから、日頃の地域との付き合いを活かして協力体制を築く働きかけを期待する。

グループホーム 夢の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室する時は必ずノックします。入浴中、トイレ使用中はむやみに中には入らないようしています。会話は同じ目線で話しかけるようしています。	言葉遣や対応で気を付けることを会議で確認している。排泄の確認が必要な時は、終わった頃合いに周りに聞こえないよう利用者の耳元で話しかけている。どのような場所も必ずノックして入るようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ボランティア活動に参加したり、外出など本人様自己決定をしていただいています。決定が困難な利用者様には事前にご家族様にお伺いしておきます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	パズルをしたい方、トランプが得意な方、塗り絵の好きな方それぞれの分野で楽しんでいただけるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節季節に応じた服装を着ていただけるよう心がけています。女性の方で出かけたり、ボランティアに参加される時、お化粧をしていただくこともあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所時に嫌いな食べ物を聞き取りしていません。メニューに嫌いな物があれば代替食を提供しています。利用者様が手分けして盛り付けしています。嚥下状況の良くない方には刻み・トロミ食を提供しています。	個々の禁止食や嫌いなものを把握して代替食を用意し、状態に合わせて刻みやトロミ食に変更している。朝食は、事業所で利用者と一緒に準備している。食器洗いなど一緒にしたり、全員が食卓を囲んで会話をしながら楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を毎食記録。水分量も脱水状態にならないよう1000CC～1200CC飲用していただいています。メニューも栄養士の指示のもとに調理されています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯の方、そうでない方、一人ひとりに合った口腔ケアを行っています。毎月、歯科衛生士に口腔内のチェックをしていただいています。		

グループホーム 夢の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録に排泄パターンが記録されていますので排泄間隔を確認しながら声掛けをしてトイレに案内しています。	リクレーション活動に没頭している利用者に声をかけたり、自立でトイレに行く人の見守りをしたりしてトイレでの排泄を支援している。骨折手術をした利用者が退院後に、トイレ介助時に立位が保てるようリハビリを依頼して取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師、看護師などと相談して内服薬を調整したり水分量をチェックしたり、牛乳を提供したりして便秘予防策をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お湯の中に香りを楽しんでいただけるよう入浴剤を入れています。予定していた日に外出される場合は入浴日を変更して入浴していただいています。入浴の声掛けも工夫しながら支援しています。	2日おきの入浴を支援し、希望すれば毎日も可能である。拒む人には「湯加減を見てもらえませんか」など誘い方を工夫したり、入浴日を変更したりして対応している。入浴剤を入れ、順番の希望を聞いて楽しく話をしながら入浴をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の思いに添って自由に休んでいただいています。季節に応じてエアコンで温度調節して環境作りを支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の処方箋が介護記録の最後のページに綴じてあります。食後の服薬時には、必ず声を出して日にちと名前を確認しています。異変が見られた場合にはすぐに主治医に相談したりしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所前の暮らし方を尋ねて、得意とすることを生かしながら役割を決めて役に立っていることを確認していただけるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と同行して買い物に出かけたり、季節に合わせて天候の良い日にはドライブに出かけたり、家族様了解のもと、喫茶店、ランチなどに出かけたりしています。	利用者の希望にそって散歩・買い物・喫茶店・外食などに出かけている。地域の行事に参加したり、お寺カフェや認知症カフェには毎月出かけたりして地域の人と交流している。季節毎の花見やドライブに全員で出かけることもある。	

グループホーム 夢の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様より、小口現金を預かり、必要な日用品などは職員とスーパーなどに出掛け、買い物支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が希望されれば、職員が電話を取り次いで会話ができるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のリビングには、季節ごとのクラフトが壁に貼ってあったり、ゆったりしたBGMを流したり、室温も調整しながら居心地よく過ごしていただけるよう支援しています。	日当たりのいいリビングの温度調節をこまめに行っている。利用者と一緒に作った壁飾りを毎月変えて季節を感じることができる空間を作っている。洗濯物を干しにベランダに出たり、数人でゲームをしたり思い思いに過ごせるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、サンルームには自由に腰掛けられるソファが設置してあります。一人ではんやりしたり、また、気の合った利用者同士で自由に談笑したり出来る居場所を提供しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご主人の遺影、お孫様の写真、思い出の写真、自筆の書道など室内に貼ったりした居室で過ごしていただいています。	テレビ・整理ダンス・毛布など使い慣れた物を置き、家族写真や趣味の作品を飾っている。ベッド脇に同じ高さの台を置いて、ベッドで過ごしやすいようにしている利用者もいる。居室の掃除をする利用者の掃除道具も置いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掃除の出来る利用者様にはモップ掛け、掃除機掛けなどを行っていただいています。居室内に自由に出入りできるように、利用者様の目線に合わせて名札、目印になるものを飾っています。		